

本校の体育活動紹介

山形県立山形聾学校

1 はじめに

本校は山形市の南西部に位置し、東に蔵王、北に月山を望む田園風景の中にあります。幼児児童生徒数は幼稚部6名、小学部16名、中学部9名、高等部8名（普通科7名、専攻科1名）の合計39名。難聴の程度は、中等度5名、高度9名、重度25名で全員が補聴器または人工内耳を装着しています。

本校の教育目標「聴覚障がいのある幼児児童生徒一人一人に豊かな人間性と社会的自立の力を育む」の達成に向けて、「心豊かで体の丈夫な人」「自分の責任を果たし、協力する人」「自分の考えや思いを表現する人」「すすんで学び、活動する人」をめざす幼児児童生徒像とし、子どもたちが主体的に活動できる授業づくりに取り組んでいます。

メールマガジン続き

2 聴覚障がいに対する配慮

早期からの聴覚活用を基盤としながら、一人一人に合わせたコミュニケーション手段を使い、教育を行っています。校内には集団補聴システムが整備され、手話、指文字、身振り、筆談などのさまざまな視覚的手段を活用しています。また、伝わったかどうかの確認や言語力を育てる配慮をしながら学習を進めています。

体育の授業では、本時の課題を明確に提示することや目的にそった指導ポイントを絞ること、学習プリント・掲示資料・動画などの視覚的資料の提示を工夫することで、指導の成果が表れています。

3 各学部の様子

(1) 幼稚部

春は中庭遊び、夏は水遊び、秋はマラソン、冬は雪遊びなど四季折々の活動や行事を通して、周囲の人や物に対して主体的で豊かなかかわりを育てています。運動会に向けての取り組み「運動会ごっこ」では、かけっこで走るだけでなく、遠足の内容に関連づけて段ボールのバスに乗ったり、ザリガニを釣ったりして走る競技を行いました。慎重にザリガニを釣った後、笑顔で嬉しそうにゴールに向かう姿が印象的でした。



(2) 小学部

学習したことが確実に身につくように、視覚情報を工夫して分かりやすく指導するとともに、様々な集団活動を通して自主性や社会性の育成に努めています。上学年グループの学習における1学期の目標は、運動会と市の水泳記録会です。各々自分に合っためあてを設定し、めあて達成を目指して一生懸命取り組んでいます。運動会では、6年女子100mで新記録を更新した他、ほとんどの児童が自己ベストを更新し、めあてを達成



することができました。今後は、水泳記録会に向けて、放課後の合同練習会や自主練習に取り組み、泳力を高めていく予定です。

(3) 中学部

小学部で身につけた意欲や態度、知識や技能などを学習と生活の両面にわたり、さらに発展、拡充させていきます。3学年合同の実技学習では、生涯スポーツにつながる運動の楽しさに触れるとともに、どうすれば上達するのか科学的な根拠に触れることや目的意識を高める動機付けを図りながら、授業を行っています。今年度からの武道必修化に伴い、本校では剣道を取り入れました。武道を学ぶ意義や礼儀作法、基本動作や基本的な技など、初めての経験に目を輝かせながら取り組んでいました。



(4) 高等部

社会的自立に向けた主体的な学びを通して学力の充実を図り、豊かな人間性の育成をめざす教育を行っています。集団的スポーツでは、男女の体力差への配慮や実態に応じたルールの工夫等を通して、意欲を高め、さまざまな仲間とかわる場面を設定しています。秋のマラソン大会では、男子5、3 km女子2、6 kmのコースを全力で完走します。運動が好きな生徒が多いだけでなく、仲間と協力して活動し行事を成功させようとする意識の高い生徒たちです。



4 部活動の様子

中高の生徒全員が、卓球部と陸上部のどちらかに所属し、中高合同で練習を行っています。限られた練習時間の中で、中学校・高等学校の地区大会や聾学校の東北地区・全国大会を目標に、互いに競い合い練習に励んでいます。また、近隣の中学校や高等学校との合同練習も行われており、少人数の本校生徒にとって強い相手と練習ができる経験は良い刺激となっています。今年度は、東北地区聾学校体育大会が11年ぶりに本校を主管校に開催されるので、同じ聾学校の仲間には負けないように練習を重ねているところです。

平成23年度の山形県発明くふう展において、本校高等部職員が出展した「陸上競技ピストル音光変換装置」が県知事賞を受賞しました。聾学校の大会では、手話での連絡やスタート時の光と旗の合図など必要な情報保障を行っていますが、一般の中学校・高等学校の大会では、十分な情報保障を受けられません。どうしてもスタートのタイミングが遅れるというハンディを解消するために、ピストル音だけを光に交換する装置を考案したものです。健聴者と同じ条件での競技が可能になるこの装置の受賞は、聴覚障がいをもつ生徒たちに明るい希望を与えるものでした。

5 最後に

学習指導要領改訂において、重視すべき重要課題の一つに「言語活動の充実」がありますが、聾学校では、コミュニケーションの成立に加え、読むこと、書くことの充実が大切といわれます。体育科の学習においても、子ども同士が活発にかかわり合い、資料を読み取る力や自分の考えや思いを書く力を育

てていかなければならないと考えます。子どもたちは毎日、授業に部活動に、精一杯体を動かし、鍛え、仲間とともに汗を流す喜びを味わっています。これからも体育指導を通して、豊かな心と健やかな体をもつ子どもたちを育てていきたいと思ひます。